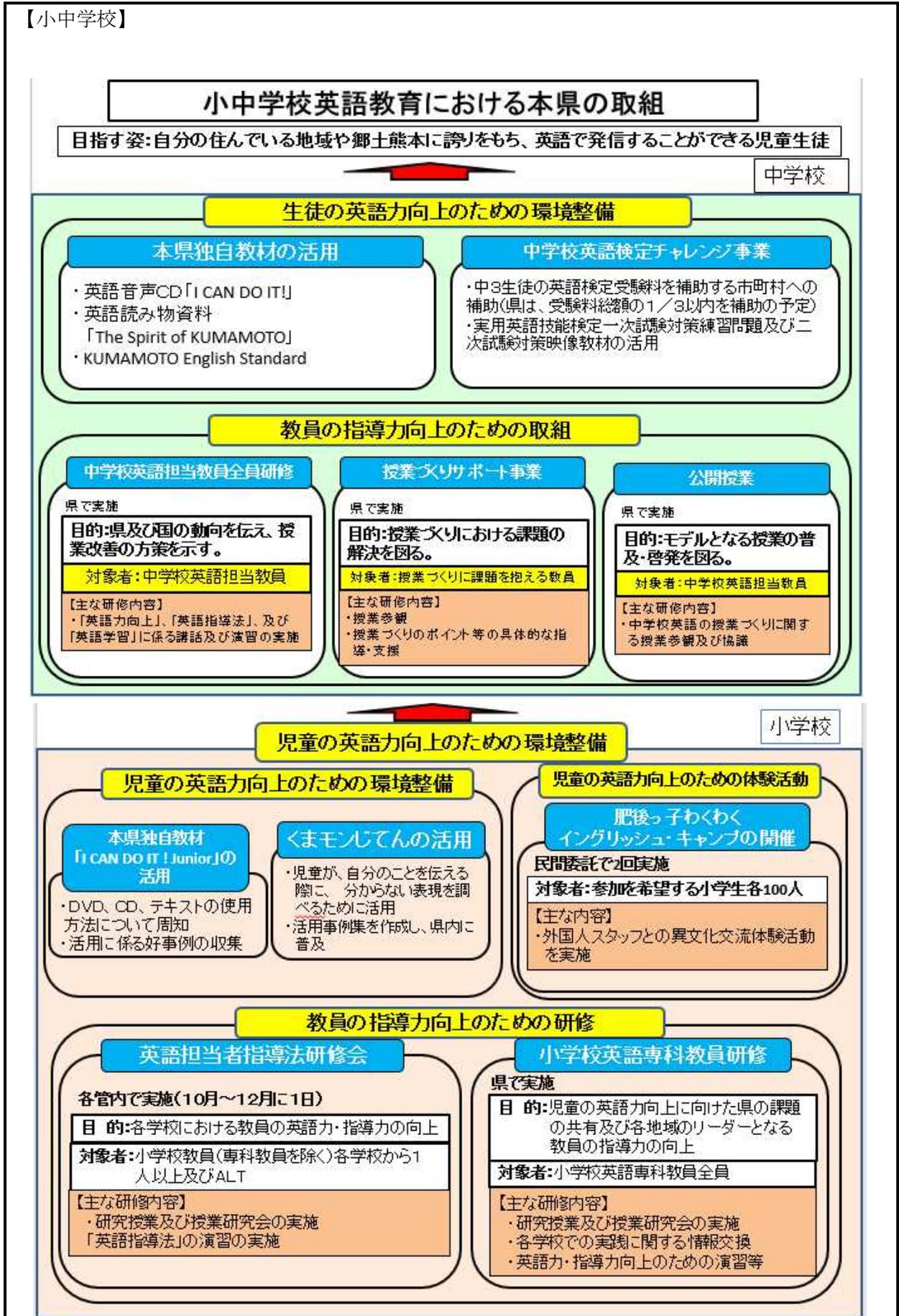
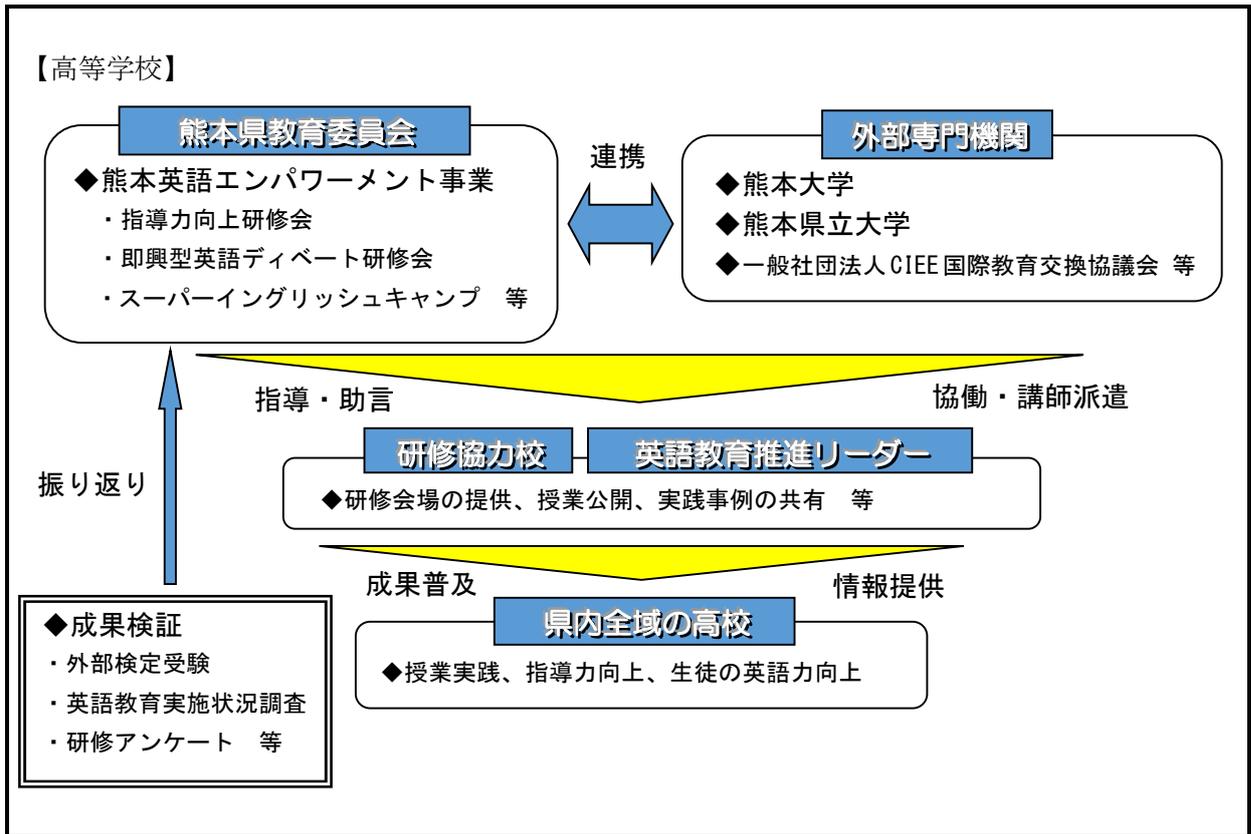


熊本県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要





(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【小中学校】

公立中学校の第3学年に所属している生徒のうち、求められる英語力の指標である CEFR A1 レベル相当を取得しているか相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合は 40.5%（令和元年 12 月現在（暫定値））で、前年度の全国平均（平成 30 年度）の 42.6%にも達していない状況である。

また、英語担当教員のうち求められる英語力の指標である CEFR B2 レベル以上を取得している英語担当教員の割合は 32.6%（令和元年 12 月現在（暫定値））で、前年度の全国平均（平成 30 年度）の 36.2%を下回っている。

<課題>

- 公立中学校第3学年の生徒のうち、求められる英語力を有する生徒の割合を、45%以上にすること。
- 英語担当教員のうち求められる英語力を所有する教員の割合を、全国平均以上にすること。

こうした状況を踏まえ、2022 までの到達目標を次のように設定し、目標達成に向けた取組を行う。

<2019 現状値及び 2022 までの目標値>

●中学校

| | | 2019 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|---|-----------------------------|-------------|-------|-------|-------|-------|
| | 指標内容 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| ① | 求められる英語力を有する英語担当教員の割合 (%) | 35.0 | 32.6 | 35.0 | 38.0 | 40.0 |
| ② | 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) | 45.0 | 40.5 | 45.0 | 48.5 | 50.0 |
| ③ | 学習到達目標の整備状況 | 設定 (%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | | 公表 (%) | 35.0 | 29.2 | 35.0 | 40.0 |
| | | 達成状況の把握 (%) | 70.0 | 63.3 | 65.0 | 70.0 |
| ④ | 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) | 88.0 | 86.2 | 90.0 | 93.0 | 95.0 |
| ⑤ | パフォーマンステストの実施状況 | スピーキング | 4.0 | 3.3 | 4.0 | 4.3 |
| | | ライティング | 3.0 | 2.1 | 3.0 | 3.3 |

| | | | | | | |
|---|-------------------------|------|------|------|------|------|
| ⑥ | 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) | 88.0 | 83.0 | 85.0 | 87.0 | 90.0 |
| ⑦ | 英語担当教員に対する研修実施回数 (集合研修) | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 |
| ⑧ | 研修受講者数 | 475 | 294 | 300 | 300 | 300 |

●小学校

| | | 2019 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|------|--------------------|------|------|------|------|-------|
| 指標内容 | | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| ① | 学習到達目標の整備状況 設定 (%) | | | 50.0 | 75.0 | 100.0 |
| | 公表 (%) | | | 35.0 | 40.0 | 45.0 |
| | 達成状況の把握 (%) | | | 73.0 | 77.0 | 80.0 |
| ② | 小学校教員に対する研修実施回数 | 7 | 6 | 3 | 3 | 3 |
| ③ | 研修受講者数 | 340 | 507 | 340 | 340 | 340 |

●小学校英語専科

| | | 2020 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
|------|-----------------------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 指標内容 | | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 (%) | 15 | 12 | 20 | 30 | 40 | 45 | 50 |

【高等学校】

<数値目標> ※「英語教育実施状況調査」における指標 (⑤以外は%)

| No. | 指標内容 | 2019 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | |
|-----|---|-----------|------|------|------|------|-----|
| | | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | |
| ① | 求められる英語力を有する担当教員の割合 | 90 | 88.8 | 91 | 92 | 93 | |
| ② | 求められる英語力を有する生徒の割合 | 50 | 41.3 | 50 | 50 | 50 | |
| ③ | 学習到達目標の整備状況 | 設定 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | | 公表 | 70 | 51.3 | 80 | 90 | 100 |
| | | 達成把握 | 75 | 53.8 | 80 | 90 | 100 |
| ④ | 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 | 75 | 48.3 | 75 | 75 | 75 | |
| ⑤ | パフォーマンステストの実施状況 (コミュニケーション英語 I での実施回数) | スピーキングテスト | 1.5 | 1.5 | 2 | 2.5 | 3 |
| | | ライティングテスト | 1.5 | 1.3 | 2 | 2.5 | 3 |
| ⑥ | 英語担当教員の授業における英語使用状況 | 70 | 56.3 | 75 | 80 | 85 | |

<課題及び手立て>

① 「求められる英語力を有する担当教員の割合」

- 課題：国の示す目標 (75%) は達成しているが、取得率は横ばい (昨年から 0.6 ポイント上昇)。
- 手立て：各種研修等で英語教師のスキルアップを図るとともに、成果検証の一つとして、外部検定試験受験を促す。また、英語教師個々の取得状況の把握にも努める。

② 「求められる英語力を有する生徒の割合」

- 課題：国の示す目標 (50%) に達していない。授業中の言語活動を含め、英語を使う機会提供が十分とは言えず、英語学習に対する動機付けを図る必要がある。
- 手立て：学校訪問等を通じて、言語活動を中心とした授業改善のより一層の推進を図る。また、ALT の積極的活用、指定校事業合同成果発表会での英語発表、県主催のイングリッシュキャンプ等、実際のコミュニケーションの場で英語を使う機会提供に努める。さらに、英語学習の成果検証として外部検定試験の有効性を伝える。

③ 「学習到達目標の整備状況」

- 課題：公表及び達成状況の把握ができていない。作成にとどまり、CAN-DO リストの具体的な活用方法が周知されていない。

- 手立て：活用の具体的方法や好事例について教育課程研究協議会等で情報共有を図る。また、各校に CAN-DO リストの見直しとともに英語版の作成を求め、パフォーマンステスト等での ALT の積極的活用を促す。
- ④ 「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合（半分以上の時間、言語活動を行っている）」
 - 課題：具体的な言語活動の方法、特に「話す」「書く」ことによる発信力の強化を図る指導方法について十分に周知できていない。
 - 手立て：即興型英語ディベートの導入を含め、スピーキングやライティングの指導方法についての研修会等を開催し、言語活動の具体的な実施方法の普及に努める。さらに、学校訪問により英語授業を視察し、適宜、指導助言を行う。
- ⑤ 「パフォーマンステストの実施状況」
 - 課題：各科目において実施割合は伸びているが、各学期でスピーキングとライティングの両方実施を目指す。言語活動同様、具体的な方法についての周知が不十分である。
 - 手立て：④の研修会等で指導方法に加えて評価方法についても取り上げ、好事例の情報提供に努め、各校の実状に合わせた実施を促す。
- ⑥ 「英語担当教員の授業における英語使用状況（発話の半分以上を英語で行っている）」
 - 課題：教員は英語で話しているが、生徒の英語による言語活動が不十分な授業が見られる。
 - 手立て：生徒の言語活動と連動するため、④の手立てと同様とする。教員は英語で簡潔かつ的確に指示を与え、生徒が英語を使う機会を多く設けなくてはならないという認識を求める。

(3) 研修の体系と内容の具体

【小中学校】

<中学校>

- 中学校英語担当教員全員研修
 - 目的：県及び国の動向を伝え、授業改善の方策を示す。
 - 対象者：中学校英語担当教員
 - 主な研修内容
 - ・「教員の英語力向上」及び「英語指導法」等に係る講話及び演習の実施
- 授業づくりサポート事業
 - 目的：授業づくりにおける課題の解決を図る。
 - 対象者：中学校英語担当教員
 - 主な研修内容
 - ・授業参観
 - ・授業づくりのポイント等の具体的な指導・支援

<小学校>

- 小学校英語専科教員研修
 - 目的：児童の英語力向上に向けた県の課題の共有及び各地域のリーダーとなる教員の指導力の向上
 - 対象者：小学校英語専科教員全員
 - 主な研修内容
 - ・研究授業及び授業研究会の実施
 - ・各学校での実践に関する情報交換
 - ・教員の英語力・指導力向上のための演習等

<小中共通>

- 公開授業
 - 目的：モデルとなる授業の普及・啓発を図る。
 - 対象者：中学校英語担当教員
 - 主な研修内容
 - ・中学校英語の授業づくりに関する授業参観及び協議

○ 英語担当者指導法研修会

目的：各学校における教員の英語力・指導力の向上

対象者：小学校教員（専科教員を除く）及び中学校英語担当教員

各学校から1人以上及びALT

主な研修内容

- ・研究授業及び授業研究会の実施
- ・「英語指導法」の演習の実施

【小学校英語専科】

- 小学校教諭等受考者における一定の英語力を有する者への加点制度
- 小学校教諭等受考者における青年海外協力隊等勤務経験者への加点制度
- 受考区分の一つとして小・中学校教諭等英語A区分（小学校配置）を設定
※一定の英語力を有する者を対象とした考査内容の一部免除制度有り。
- 中学校教諭等受考者に対する小学校教諭等の併願制度
※中学校英語を受考する際、第2希望として小学校を併願することができる。

【高等学校】

<2020年度実施>

「熊本英語エンパワーメント事業」（熊本県高等学校英語教師指導力向上事業を含む）

- 1 指導力向上授業研究会（年3回開催）
 - 対象者：高等学校英語教師 各回20人程度
 - 目的・内容：研修協力校の授業（英語教育推進リーダーによる授業を含む）を基に、新学習指導要領を見据えた授業について研究協議を行う。大学教授等を指導・助言者として招く。研究協議のテーマは、観点別評価等、研修協力校自体の課題等を踏まえた上で決定する。
- 2 指導力向上研修会（年3回実施）
 - 対象者：高等学校英語教師 各回20人程度
 - 目的・内容：研修協力校等を会場に、スピーキングやライティングの指導や評価方法の具体の普及を図るため、英語教育推進リーダーや大学教授等を講師としたに関するワークショップ形式の研修会を開催する。
- 3 指導力向上講演会（年1回開催）
 - 対象者：高等学校英語教師 80人程度（全校から参加）
 - 目的・内容：新学習指導要領実施を目前にした今考えておくべきことについて周知を図るため、大学教授等を講師とした講演会を開催する。
- 4 即興型英語ディベート研修会（生徒による交流大会を含め3回開催）
 - 対象者：高等学校英語教師20人程度（3回とも同一の参加者）
 - 目的・内容：英語による発信力を強化する具体的な言語活動の一つとして即興型英語ディベートに焦点をあて、ジャッジを含めた授業での実施方法について集中的な研修を開催する。複数校の高校生によるディベート交流大会のジャッジを教師が行うなどして、授業実践につなげる。
- 5 外国語指導助手指導力等向上研修（年1回（2日間）実施）
 - 対象者：ALT及び小中高の英語（外国語活動）担当教員（高校担当50人程度）
 - 目的・内容：ALTと効果的なティームティーチングの方法について学ぶため、大学教授等による講演会や英語教育推進リーダー等を講師とした研修会を開催する。
- 6 外部検定受験
 - 対象者：高等学校英語教師30人程度（希望者）
 - 目的・内容：各研修の成果検証や英語教師の自己研鑽を促すため、CEFR B2 レベル以上未取得者を中心に、外部検定（TOEIC IP）を県が実施する。
- 7 スーパーイングリッシュキャンプ等の開催

高校生（県立中学生を含む）を対象に、英語によるディベート・ディスカッションなどハイ

レベルな言語活動を行う「スーパーイングリッシュキャンプ」や、英語発表部門を含むスーパーサイエンスハイスクール等の指定校合同成果発表会等を県主催で開催することで、生徒の英語学習への動機付けと英語力向上を図る。ALTや県内大学の留学生の参加を求める。

<2022年度までの計画>

研修毎のアンケート調査や英語教育実施状況調査の結果等により2020年度の事業内容の成果の検証を図り、次年度以降の実施内容を決定する。

